



学校だよりNO37 令和5年 1月31日 児童数 487人

薫っ子 II



文責 校長 古川 次男

読書のすすめ

本校の朝の時間は、図書室の利用から始まると言っても過言ではないでしょう。月曜日の2年生から始まって、金曜日の6年生まで割り当てがしてあるので、最低でも1週間に1冊は読むこととなります。（1年生は、特別ルールでそれ以外の時間帯を利用して本を借りています。）12月までの集計で、1番利用の多かった学級は3年3組で2835冊の利用がありました。33人の学級なので $2835 \div 33 = \text{約}86$ 冊。このペースでいけば、1年間に一人当たり100冊の利用が見込めそうですね。しっかりと本に親しんでいるようです。

私事になりますが、読書に目覚めたのはおそく、高校生の頃と記憶しております。夏目漱石や芥川龍之介等の教科書で習った作家の小説を手当たり次第に読み始め、星新一や筒井康隆といった短編SF小説などにはまったのが高校時代でした。

その後、ご多分に漏れず、信長・秀吉・家康を題材にした小説にロマンを抱き、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」等の幕末を題材とした小説に心をときめかせました。図書館に行くと、小説部門の半数は歴史小説で埋められているのではないかと思うほど、歴史小説好きな人が多くいるのだなと感じます。

教職についてからは、定期購読の教育雑誌を愛読するとともに、本屋さんに進められるがまま、年に1回は全20巻からなる高価な教育書を買わされていたような気がします。大村はま、野口芳宏、西郷竹彦等の著作集。（ほぼ積ん読状態でしたが）

そして、現在は、郡山市立図書館（中央図書館と富久山図書館を主に利用しますが）から、文庫を中心に借りています。あまり借り手がないのか、かつてよりきれいな本を借りることが多くなったような気がします。

実は、令和元年度に郡山市学校図書館協議会長を令和2～3年度に福島県学校図書館協議会長をそして、今年度は福島県学校図書館協議会顧問を拝命しております。学校図書館に関わる機会が多かったもので、微力ではありますが、読書感想文コンクールや読書感想画コンクール、読書感想文集の発行に関わってまいりました。令和5年度は、本市を主会場として学校図書館協議会の東北大会が予定されています。

無理して勧めることはしませんが、年間に100冊も読める薫っ子がいることは、校長としての私の誇りです。自分自身の経験から、間接体験にはなりますが、読書によってかなりの知識を深めることができましたし、考え方の幅が広がったように感じます。

ご家庭でもぜひ、時間を見つけてお子さんといっしょに読書に親しんではいかがでしょうか。



【図書室で本を選ぶ薫っ子】